

“多品種少量生産”自動車部品加工業

特別経営レポート

低コスト

補助金活用

自動車部品加工業

BI活用によるデータ集計自動化で

“10人の工数削減!”

～自動車部品加工業が今実施すべきDXとは～

特別インタビュー

DX活用で生産管理業務年間24,000時間削減

東洋ブレイジング株式会社 代表取締役 伊藤 幹夫 氏

<企業プロフィール>

1972年(昭和47年)5月に創業。従業員数98名。無酸化ろう付け・焼鈍を中心に、冷鍛・切削加工・プレス加工・メッキ・塗装・組付と一貫生産を行っている。RPAやBIツールを有効活用。生産管理システムを軸としたデータ基盤を構築し、納期管理・進捗管理・原価管理・在庫管理といった生産管理業務を効率化。データ活用・分析の土台を構築し、データドリブン経営実現に向けた取り組みをしている。



3分で読める! 確実に製造経営に参考となる内容は中面をご覧ください。

自動車部品製造業のDXセミナー

お問い合わせNo.S110786

〈主催〉



サステナブルな成長を促す。

Funai Soken

船井総研セミナー事務局

E-mail:seminar271@funaisoken.co.jp

※お問い合わせの際は「セミナータイトル・お問い合わせ No. お客様氏名」を明記の上ご連絡ください。

株式会社船井総合研究所 〒541-0041 大阪市中央区北浜 4-4-10 船井総研大阪本社ビル

当社ホームページからお申込みいただけます。(船井総研ホームページ[www.funaisoken.co.jp]右上検索窓に「お問い合わせNo.」を入力ください。→

110786 Q

現場主導

「BI活用によるデータ集計自動化」で“10人分の工数削減”ができました！

～「製造進捗の見える化」と「原価の見える化」を見事に成功された

東洋ブレージング株式会社 代表取締役の伊藤 氏にお話をお聞きしました～

伊藤氏：東洋ブレージング株式会社 代表取締役の伊藤幹夫と申します。主に無酸化する付けや磁気抜き焼鈍加工・溶接を手掛けている、愛知県の従業員数約100名の会社です。ろう付け・焼鈍に限らず、プレス加工・切削加工・メッキ・塗装・組付けまで社内一貫で生産できる体制を強みとしております。



東洋ブレージング株式会社
代表取締役 伊藤 幹夫 氏

今回は、生産管理システムをフル活用し、足りない機能はRPAやBIツールを用いて効率化した事例についてお話しさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

■ 完全ペーパーレス化を実現した背景とは？

伊藤氏：非常にお恥ずかしい話ですが、私の会社では、まだまだ紙帳票へ手書きをして情報共有をしているアナログ業務が多くありました。

特に、製造部では製造実績、不良情報、品質情報を手書きしており、これらの紙の入力作業が**本来の生産業務に支障をきたして**おりました。計算すると、製造部全体で1日当たり**100時間**も手書き入力作業に費やしていました。

また、紙帳票の運用に紐づいて、工場の進捗管理に関しても課題が浮き彫りになりました。手書きで書かれた帳票を集め、Excelへ手動で転記をしなければならず、これに1日当たり**6時間**かかっていました。さらに、手書きで書かれた文字の解読にも時間がかかる等、**アナログ業務ならではのムダ**が多く発生していました。

紙による運用によって現場の作業進捗が把握できないため、進捗の確認をするためには**現場へ毎回出向かなければならない**といった弊害も発生しておりました。現場は一生懸命に取り組んでいますが、それを**管理するための体制**が整っていなかったのです。

この時間を生産業務へ費やすことができるようになれば、それだけで生産性が大きく上がります。これはやらない手はないと思い、ペーパーレス化への取り組みを始めました。

■紙ベースのアナログ日報管理から脱却して、 デジタル化によるリアルタイム生産進捗管理へ！

伊藤氏：とにかく現場の紙帳票を無くすべく、現場へタブレットを導入し、日々の日報への記入をデジタル化する取り組みから始めました。すべての帳票をそのままデジタル化するのは**コストが多く発生してしまう**ため、今回の取り組みを機に**紙帳票の見直し**を行い、簡易アプリを船井総合研究所に構築していただき、デジタル化を実現しました。

もともとあった生産管理システムから出力される作業指示書のバーコードを読み取り、タブレット端末を使って作業の開始終了時にスタート・ストップボタンを押すことで作業時間をリアルタイムで取得するようなシステムです。

それまでは紙で日報を運用していたのですが、

- ・紙運用であると作業時間が作業者の感覚で入力されてしまい、**正確でない**。
 - ・データを集計するためには転記作業・手動集計となり、**非常に手間がかかる**。
 - ・1日の終わりに紙を集めて集計するため、集計結果が**リアルタイムに出てこない**。
- といった課題がありました。

現場の紙日報のデジタル化だけでも十分効果のあるものですが、取得したデータを活かし、データを使った現場改善をしていきたいという思いがありました。今回は**BIツール**を使い、取得したデータを**リアルタイムで集計**できるような仕組みを船井総合研究所に構築していただきました。

これにより、現場の手入力作業の削減、リアルタイムデータ分析を行うことができるようになりました。集計してみて分かったのですが、やはり**赤字の製品はチラホラありました**……。目を背けたくところですが、会社の**改善ポイントが見えるようになった**のはこのシステムの効果です。

黒字化に向けて、赤字製品に対してより細かなデータ分析を開始しました。



■ データという客観的結果が表れることで、現場社員に変化が…

伊藤氏 : 納期がギリギリの製品に対して、製品軸の製造進捗を分析すると、**工程間でかなりの空き時間が発生していることが判明しました。なぜ今まで気づけなかったのか…**

データ取得によって今までなんとなく感じていた課題感が浮き彫りになり、改善しなければいけない箇所を**特定することができました**。この集計結果をもって現場担当者と話をすると、

「やらなければならない製品が自分の手元に来ない。」

「切替時間を少なくして、効率性を高めるために順番を前後させている。」

といった**声が上がってようになってきました**。データ活用をする前の「もっと頑張れ！」というやり取りでは見えていなかった課題です。

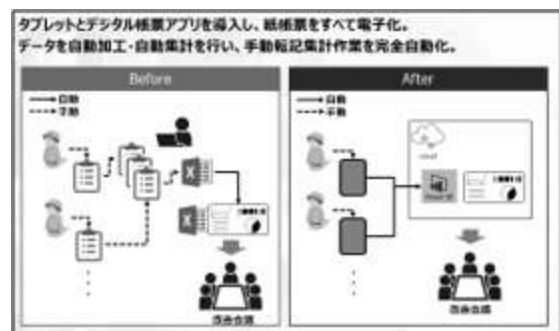
■ データ化はあくまでも手段！ 社員の意識改革こそが本質！

伊藤氏 : 今回、データ活用をして初めて気づいたのですが、社長・生産管理・現場の間で改善すべき箇所を共通認識化できたことは大きな効果であると感じました。また、今回のように現場にタブレットを導入する取り組みは、現場から反発の声が上がることも少なくないと聞いていましたが、現場からは「従来の紙への記入がなくなるのはとてもありがたい」「なんで今までタブレット化していなかったのか」といった**前向きな声が多く聞こえ、積極的に協力してくれました**。船井総合研究所に構築いただいたタブレット画面は簡潔でわかりやすく、数回触ってみるだけで作業に影響のないレベルで運用が可能であり、今までの紙管理がいかに負担だったかを改めて痛感しました。

その結果、現場は**働きやすい環境へ改善**することができ、やがては会社全体の儲けが増えていくようになりました。責任者を1人明確に決め、データを取得することを徹底させることでこのようなデータ活用を行うことができたのです。

今言えることは、**BI活用による見える化・データ化で儲けが増えたのではなく、見える化・データ化により現場社員の意識が変化して、現場主導で現場改善が進み、その結果、製品の利益改善が進み、会社全体の改善が実現できた**と思っています。

決して、見える化・データ化・デジタル化が目的ではなく、それは手段であり、**社員の意識改革こそが本質**だと痛感しています。社長の私はそのお膳立てをしたに過ぎない、そう感じています。



■ここまでお読みいただいた方へ

製造現場の製品別工数情報をデータ化し、そのデータを活用した現場改善の事例はいかがだったでしょうか？
データ取得の重要性、データ取得から現場改善までの改善ストーリーをご理解いただけたかと思います。



申し遅れましたが、私は株式会社船井総合研究所で
製造業の原価管理コンサルティングの部門に所属している
熊谷俊作（くまがいしゅんさく）と申します。

今回の事例について、重要な部分は「**正確なデータ取得**」とそれを「**分析する手法**」、そして「**現場社員の意識**」です。正確なデータが取得できないと、その後の改善箇所を特定できません。全自動でデータが取れば良いですが、費用も膨大にかかります。費用をできるだけ抑えたうえで正確なデータを取得するためには現場社員の協力が必要となります。

では、、、

どのようにして現場の負担なく、かつ、コストを抑え、正確なデータを取得するのか？

どのようにしてデータを分析するのか？有効活用していくのか？

どのようにして社員の意識を高めるのか？成果を出していくのか？

今回、そのような課題を解決できるセミナーを企画いたしました。本セミナーでは数多くの事例を取り上げさせていただいて、成功手法・ノウハウを惜しみなくお伝えさせていただきます。そのセミナーの内容をほんの一部ご紹介すると・・・

【セミナーで取り上げる取組事例】

<愛知県：東洋ブレージング株式会社>

完全ペーパーレス化・製造進捗の見える化で儲けを増やせた事例！

<佐賀県：聖徳ゼロテック株式会社>

属人化した原価管理業務を基幹システム導入で見える化した事例！

<滋賀県>

従業員170名の会社の現場の紙運用を廃止！データを使ったDX現場改善！

<岐阜県>

従業員30名！RFIDにより製造工数自動集計・リアルタイム分析に取り組んでいる事例！

なお、本セミナーはオンライン開催となります。DXが叫ばれている中で、今回のデータ取得・活用はDXの基盤となる取り組みになります。原価管理・データドリブン経営・DXにお悩みの事業主の方も、そうでない事業主の方も、いずれ直面する課題です。是非、本セミナーにご参加いただければと思います。お会いできるのを楽しみにしております。

株式会社船井総合研究所 AI・ロボット・ERP支援部 熊谷 俊作

自動車部品製造業のDXセミナー

生産管理&原価管理を徹底見直し！原価率削減！儲け改善！

本セミナーはこのような事業主の方が対象です

- ☑ 従業員200名以下の板金加工業の事業主の方
- ☑ 製品毎の原価、取引先毎の原価、工程毎の原価を把握しきれていない事業主の方
- ☑ 個別原価計算を実施しておらず、個別原価を把握しきれていない事業主の方
- ☑ 現状のシステムを変更せずに低コストで製品別個別原価を把握されたいと思っている事業主の方
- ☑ 人手のかかる作業や二重三重の生産管理・原価管理業務が多い板金加工業の事業主の方
- ☑ 生産管理・原価管理業務が職人化・属人化している板金加工業の事業主の方
- ☑ 何が儲かっているのか・儲かっていないのかわからずに対策が後手になっている板金加工業の事業主の方
- ☑ DX経営による経営体制の効率化を実現したいと思っている事業主の方

本セミナーでは
DX化による
多品種少量生産
部品加工業の
原価改善取り組み
事例を学べます！

＜愛知県 東洋ブレージング株式会社＞



従業員約100名の金属加工会社が
属人化した原価管理業務を
BI活用により
データ集計自動化！

東洋ブレージング株式会社 代表取締役 伊藤幹夫氏
無酸化ろう付け・焼鈍を中心に、冷鍛・切削加工・プレス加工・メッキ・
塗装・組付と一貫生産を行っている。
RPAやBIツールを有効活用。生産管理システムを軸としたデータ基盤
を構築し、納期管理・進捗管理・原価管理・在庫管理といった生産管
理業務を効率化。データ活用・分析の土台を構築し、データドリブン経
営実現に向けた取り組みをしている。

＜滋賀県N社の事例＞

従業員170名の会社の
現場の紙運用を廃止！
データを使った
DX現場改善！



＜岐阜県S社の事例＞

従業員30名の
RFIDによる
製造工数自動集計・
リアルタイム分析！



講 座 内 容

社長が知っておくべき同業他社の原価改善取り組み事例

- ＜滋賀県＞ 従業員170名の会社の現場の紙運用を廃止！データを使ったDX現場改善！
- ＜岐阜県＞ 従業員30名のRFIDによる製造工数自動集計・リアルタイム分析！

＜愛知県＞ 東洋ブレージング株式会社

従業員100名の自動車部品加工会社が既存のシステムをフル活用して原価管理を実践！

第1講座 事例紹介編

社長ご登場!!

材料費高騰対策！儲けの改善の仕組み導入成功編

- 製造業における生産管理・原価管理業務の課題
- 生産管理・原価管理システムの導入失敗例
- 成功する生産管理・原価管理システムの業務改善手順と成功する具体的導入プロセス
- 個別製品原価、得意先別製品原価、工程別原価をデータ化した事例紹介
- 生産管理・原価管理システム+BIツールで経営・現場が必要なデータを見える化する具体的方法
- 生産管理・原価管理システムの導入・活用で個別原価管理を安価で成功させるためのベンダー選び

第2講座 戦略解説編

講 師

東洋ブレージング株式会社 代表取締役
株式会社船井総合研究所 AI・ロボット・ERP支援部 ディレクター
株式会社船井総合研究所 AI・ロボット・ERP支援部

伊藤 幹夫 氏
西山 直生
熊谷 俊作

ご入金確認後、マイページの案内をもってセミナー受付とさせていただきます。

自動車部品製造業のDXセミナー

お問い合わせ No. S110786

開催要項

オンライン開催

※全日程とも内容は同じです。ご都合のよい日程をお選びください。

2024年 3月21日(木)

開始 13:00 ▶ 終了 15:00 (ログイン開始 12:30 より)

お申込み期限：3月17日(日)

2024年 3月25日(月)

開始 13:00 ▶ 終了 15:00 (ログイン開始 12:30 より)

お申込み期限：3月21日(木)

2024年 3月27日(水)

開始 13:00 ▶ 終了 15:00 (ログイン開始 12:30 より)

お申込み期限：3月23日(土)

日 時

※セミナーにお申込みいただきますとオンライン個別相談がセットになっております。
※本講座はオンライン受講となっております。諸事情により受講いただけない場合がございます。ご了承ください。
セミナーご参加方法の詳細は「船井総研 Web参加」で検索。

受講料

一般価格 税込 **11,000**円/1名様 (税抜 10,000円)/1名様

会員価格 税込 **8,800**円/1名様 (税抜 8,000円)/1名様

●お支払いが、クレジットの場合はお申込み手続き完了後の案内(メール)をもって、セミナー受付とさせていただきます。銀行振込の場合はご入金確認後、お送りする案内(メール)をもって、セミナー受付とさせていただきます。●銀行振込の方は、税込金額でのお振込をお願いいたします。お振込みいただいたにも関わらずメールがお手元に届かない場合や、セミナー開催4日前までにお振込できない場合は、事前にご連絡ください。尚、ご入金を確認できない場合は、お申込みを取消させていただく場合がございます。●会員価格は、各種経営研究会・経営フォーラム、および社長 online プレミアムプラン(旧:FUNAI メンバーズ Plus)へご入会中のお客様のお申込みにご利用となります。●ご参加を取り消される場合は、開催3日前まではマイページよりキャンセルをお願いいたします。それ以降は下記船井総研セミナー事務局宛にメールにてご連絡ください。尚、ご参加料金の50%を、当日の欠席は100%をキャンセル料として申し受けますのでご注意ください。

お申込み
方法

下記 QR コードよりお申込みください。クレジット決済が可能です。

または、船井総研ホームページ(www.funaisoken.co.jp)、
右上検索窓にお問い合わせNo.**110786**を入力、検索ください。

お問い合わせ



サステナブルな成長を促すことを目的として

Funai Soken 株式会社船井総合研究所

船井総研セミナー事務局 **E-mail: seminar271@funaisoken.co.jp**

TEL: 0120-964-000 (平日 9:30 ~ 17:30) ※お電話・メールでのセミナーお申し込みは承っておりません。

また、お問い合わせの際は「お問い合わせ No. とセミナータイトル」をお伝えください

お申込みに関してのよくあるご質問は「船井総研 FAQ」と検索しご確認ください。

お申込みはこちらからお願いいたします。

PC の方はこちら

船井総研 110786

検索

※6桁の数字も含めて検索ください

<https://www.funaisoken.co.jp/seminar/110786>

スマートフォンの方はこちら

